

所 属	東筑紫短期大学	専攻科 (介護福祉専攻)
担 当 科 目	<p>〔専攻科(介護福祉専攻)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係とコミュニケーション ・介護の基本Ⅰ、介護の基本Ⅱ ・生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲ ・介護過程Ⅰ、介護過程Ⅱ ・障害の理解 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ ・生活支援技術 (形態別) 	
専 門 分 野	■ 介護福祉学	
最 終 学 歴	学校法人 戸早学園 北九州保育福祉専門学校 幼児教育科	1992年4月～1994年3月
学 位	専門士	
職 歴	<p>大日精化 広島化工株式会社 (1989年4月～1991年12月)</p> <p>○介護老人保健施設 さくら苑 (1994年4月～1998年11月)</p> <p>○介護老人保健施設 あげぼの荘 (1998年12月～2007年2月)</p> <p>○学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校 (2007年3月～2018年3月)</p> <p>介護福祉科</p> <p>○生活支援技術 (旧 介護技術) 担当 (2008年4月～2018年3月)</p> <p>○介護総合演習 (旧 実習指導) 担当 (2008年4月～2018年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻) 准教授 (2018年4月～現在に至る)</p> <p>○生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲ 担当 (2018年4月～現在に至る)</p> <p>○介護過程Ⅰ、介護過程Ⅱ 担当 (2018年4月～現在に至る)</p> <p>○障害の理解 担当 (2018年4月～現在に至る)</p> <p>○介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ 担当 (2018年4月～現在に至る)</p> <p>○人間関係とコミュニケーション 担当 (2022年9月～現在に至る)</p> <p>○介護の基本Ⅰ 担当 (2023年4月～現在に至る)</p> <p>○介護の基本Ⅱ 担当 (2023年9月～現在に至る)</p>	
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>1. 「介護実習における記録の指導方法についての再考」 ～ ‘考える力を育成する’ 実習日誌の評価・考察の思考過程について～ (論文) (単著)</p> <p>(概要)</p> <p>介護福祉における実習日誌は単なる感想文、反省文等ではなく、‘何故失敗したのか?’ ‘指導者からの指導・助言にはどういった重要性があるのか?’ 等について考え、さらに ‘このような失敗をするとどのようなことが考えられるか?’ といった根拠 (エビデンス) を考える=「考察力」を向上させていく最良の機会となる。この考察の繰り返しにより、考えることへの習慣付けができ、観察力・洞察力の向上、客観的視点での根拠の明確化、想像力 (創造力)、危険予測等の専門性の向上が図れるという点について論じた。 (北九州保育福祉専門学校 平成27 (2015)年5月)</p> <p>2. 「災害ボランティアにおける現状と課題」 — 今、私たちにできること — (論文) (単著)</p> <p>(概要)</p> <p>暴風雨や洪水等による水災害、地震災害、火山災害等、自然災害の多発する現代の日本において、災害復興の一助となる ‘災害ボランティア人材’ はなくてはならない貴重な存在となった。そこで、筆者自身が実際の災害ボランティア活動に携わった、熊本地震・九州北部豪雨・西日本豪雨での、被災地における活動内容についての現状を報告するとともに、現在の災害ボランティアの在り方についての課題を明らかにすることを目的として論じた。 (東筑紫短期大学 研究紀要 第49号 平成30 (2018)年12月)</p> <p>3. 「移動介助技術の教授方法の課題に関する一考察 (Ⅰ)」 (論文) (単著)</p> <p>(概要)</p>	



実技の事例問題に基づき、学生が杖歩行、および車いすでの移動介助を実施し評価することで、介助技術の習得度の把握、および危険性を伴う介助場面の分析を行い、今後の生活支援技術における実技指導に活かしていくことを目的として論じた。

(東筑紫短期大学 研究紀要 第50号 令和元(2019)年12月)

4. 「介護福祉士養成課程の変遷に関する一考察」(論文)(単著)

(概要)

翌年2019(平成31)年より、新たな「求められる介護福祉士像」に即し、複雑化・多様化・高度化する介護ニーズに対応すべく介護福祉士養成カリキュラムも見直しが行われることとなった。そこで、「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」における「5つの主な見直し事項」をもとに、より効率的・効果的な具体的教授方法、および今後の課題について考察することを目的として論じた。

(東筑紫短期大学 研究紀要 第51号 令和2(2020)年12月)

主な社会活動

- ・福岡県介護保険広域連合豊築支部 介護認定審査会委員 (2012年12月～現在に至る)
- ・特別養護老人ホーム「美咲ヶ丘」職員研修会 講演 (2013年12月)
- 「ささやかな訴えに耳を澄ませて ～対人援助者として求められる専門性とは～」
- ・苅田町障害者施策推進協議会委員 (2014年9月～2016年9月)
- ・障害者支援施設「周防学園」職員研修会 講演 (2016年2月)
- 「高齢者支援への視点の転換」
- ・熊本地震 災害ボランティア参加 (2016年5月～2016年10月)
- ・介護福祉士養成施設協会 九州ブロック教員研修会委員 (2016年10月)
- ・認知症啓発イベント「ラン伴」参加 (2016年11月)
- ・苅田町社会福祉協議会 講演 (2017年1月)
- 「熊本震災から見えた『ボランティアの力』とは」
- ・九州北部豪雨 災害ボランティア参加 (2017年7月)
- ・認知症啓発イベント「ラン伴」参加
- ・西日本豪雨 災害ボランティア参加 (2017年11月)
- ・周望学舎シニアカレッジ 講師 (2018年6月)
- ・令和元年8月の前線に伴う大雨 災害ボランティア参加 (2018年9月)
- ・「ふくおかカイゴつながるプロジェクト2019」参加 (2019年8月)
- ・株式会社よしなが 職員研修会 講演 (2019年10月)
- 「虐待予防・権利擁護について」
- ・介護の3つの魅力(「楽しさ」「広さ」「深さ」)を発信する地域別ミニイベント 参加 (2021年12月)
- ・周望学舎シニアカレッジ 講師 (2022年9月)
- ・台風14号豪雨 災害ボランティア参加 (2022年9月)
- ・令和5年7月大雨災害ボランティア参加 (2023年7月)
- ・周望学舎シニアカレッジ 講師 (2023年9月)
- ・令和5年度 講師養成研修 講師 (2024年2月)

所属学会

公益財団法人 福岡県介護福祉士会 (2011年1月～現在に至る)

所属	東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻）
担当科目	<p>【専攻科(介護福祉専攻)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の理解 ・介護の基本Ⅰ、介護の基本Ⅱ ・生活支援技術Ⅰ ・生活支援技術（家事の介護） ・介護総合演習Ⅰ、介護総合演習Ⅱ ・介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ <p>【保育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護Ⅱ ・社会福祉
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ■社会福祉 ■地域福祉
最終学歴	福岡県立大学 大学院修士課程 人間社会学研究科 福祉社会専攻（制度政策分野） 修了
学位	修士（社会福祉）
職歴	<p>学校法人沖学園 沖学園高等学校介護福祉コース 非常勤講師 「社会福祉概論」担当 (1999年4月～2001年3月)</p> <p>福智町役場（当時：方城町）臨時職員のうち嘱託職員（社会福祉士）「方城町総合福祉計画」策定及び福祉のまちづくり担当 (2000年4月～2002年3月)</p> <p>学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校 専任教員 介護福祉科及び介護福祉専攻科にて授業担当 (2002年4月～2011年3月)</p> <p>学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校 非常勤講師 (2012年4月～2017年3月)</p> <p>西日本工業大学 非常勤講師 「総合人間科学」担当 (2015年4月～2017年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻）講師 (2017年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護実習の手引き<東筑紫短期大学専攻科（介護福祉専攻）>」作成（2017年度版～2024年度版 毎年改定） ・介護実習施設意見交換会の開催、プロセスレコード演習の取り組み、研究報告会の開催等を通して対人援助の専門性習得に注力している。2017年度からは県内の介護福祉専攻科の短大と合同で三短大介護職実践セミナーを開催し、保育士資格と介護福祉士資格を有する学生相互の交流、学びの機会を設けている。
主な研究活動	<p>【論文】</p> <p>1. 「住民参加における情報提供と情報共有の重要性について」 (論文 発表) (単著) (概要)</p> <p>本論文では、地域福祉の展開における住民参加システムの構築に関する課題について考察を試みた。行政の福祉計画（福祉のまちづくり計画）の事例では、計画に参画する住民の主体性が、多様な情報に影響され得ることを明らかにした。また、別集団におけるアンケート調査においては、ボランティア活動や市民活動への参加と福祉情報量の有無に関連が生じることを示した。これらの結果を踏まえながら地域福祉の展開における効果的な情報発信の方策と情報システムのネットワーク化の課題について言及した。</p> <p>日本社会福祉学会九州部会大会発表（1999年度）</p> <p>2. 「幼老交流の動向と今後の展望について － 特別養護老人ホームにおける子どもクラブの事例から － (論文) (単著) (概要)</p> <p>1970年代以降、少子高齢化は急速に進み、家族形態やライフスタイルも大きく変化した。社会状況の変動の渦中で、人々の社会福祉のニーズは多様化、複雑化し、介護福祉や子育ての分野だけではなく、貧困、虐待やひきこもり、孤独化による心身の不調など多岐にわたっている。多変化する社会状況と社会福祉ニーズに如何に向き合うべきか。本稿は、近年広がりを見せている、共生社会を志向した多角的な視点による事業形態の一例として、高齢者施設と小学生の子どもクラブ事業における幼老交流の実践から考察を得るもので</p>



ある。高齢者と児童の分野にまたがる事業展開の意義に関して、世代間交流の重要性とともに地域共生社会の構築における世代間交流事業の必要性について提起した。自助、互助、共助、公助が協働する地域共生社会の実現の中に、現在の社会福祉ニーズが充足され得る可能性を見出している。

東筑紫短期大学研究紀要 第 49 号 (2018 年 12 月)

3. 「介護福祉士の仕事、資格に関するイメージの実態 — 学生のイメージ調査を通して —」 (論文) (共著)

(概要)

高齢化の進展に伴い要介護者数が増加の一途である反面、介護福祉の現場では慢性的に人材が不足している。介護職員の人材確保に関しては、現在、外国人労働力の導入をはじめ介護福祉士の処遇改善手当の支給や普及啓発活動など、国や都道府県を中心として様々な政策が進められている。複雑多様化する要介護者のニーズに専門的にかかわる介護福祉士は非常に重要な存在であるが、介護福祉士を養成する専修学校、短期大学、大学（以下、養成校と略す）への進学を志す学生数は一様に減少傾向が続く状況にあり、教育機関において専門基礎教育を修得した介護福祉士の輩出が現状としては非常に厳しい。

若者が、先々の進路として介護福祉の分野に将来を見出せない要因を把握することは人材確保や社会的役割の認知において必要な視点であると考え。本稿では、本学の学生を対象にした介護福祉士の仕事及び資格取得に関するイメージ調査をもとに、イメージの転換や情報提供のあり方に関する課題について考察をしている。

東筑紫短期大学研究紀要 第 50 号 (2019 年 12 月)

(共著 田中文佳 奥川 満子 廣藤 智之)

4. 「介護総合演習と介護実習の教育効果について — プロセスレコード活用の試み —」 (論文) (単著)

(概要)

1987 年に社会福祉及び介護福祉士法が制定され、国家資格の介護福祉士が誕生して 30 年を超える。この間、加速する少子高齢化と介護ニーズの多様化のもと介護福祉士の業務内容や義務規定は改正され、その独自性を高めてきたといえる。近年には、介護職の構造改革が示され、多様かつ複雑高度な介護ニーズに対して専門的個別支援を担う役割が明確化された介護福祉士は、介護職の中核を担う人材として位置づけられることとなった。「求められる介護福祉士像」の改正とともに介護福祉士養成課程にも新しいカリキュラムが導入され、介護福祉士の養成課程には専門性の高い人材の育成が求められている。

養成課程においては、科目の履修に止まらずに、専門性習得を目指す教育実践の道筋を明示することが急務の課題といえよう。専門的知識、技術を習得させ得ることは簡単なことではなく、教育活動の創意工夫と研鑽が不可欠である。本稿では、専門性の習得を目指す手法の一端として、介護実習と介護総合演習の科目の連動を通じたプロセスレコード活用の教育的効果について検証を試みた。プロセスレコードを用いた実践内容の可視化を主軸として、評価の可視化、反復演習の意義、科目間コーディネート視点について考察を行い、専門性習得を目指す教育効果の意義を見出した。

東筑紫短期大学研究紀要 第 52 号 (2021 年 12 月)

5. 「介護ロボット及び ICT 利活用の動向と介護福祉士養成の視座」 (論文) (単著)

(概要)

介護福祉の現場では、近年、ロボットや IOT・ICT 技術の利活用が推進されている。介護福祉士の養成課程のカリキュラムには、現況として ICT 利活用の内容が含まれておらず、新たな介護現場の実働に対する養成教育のあり方が問われ始めている。本稿では、利用者の尊厳を優先し重視する対人援助の学びと、機器を通じた合理的技術の活用に関する新たな学びについて、双方を包摂する教育的視座を探り、パラダイムシフトにおける介護福祉の価値を教授する教育のあり方について考察した。

方策として、介護ロボットや ICT 導入に関する近年の動向を整理とあわせ、学生の意識調査の分析結果より考察を進めている。IOT・ICT 利活用による介護現場の新たな実践の必要性とともに、対人援助の本質と介護福祉の価値を基軸とする教育活動の重要性について結論をまとめている。

東筑紫短期大学研究紀要 第 53 号 (2022 年 12 月)

【学会発表】

1. 「専攻科における学生募集の展望」 (共同)

〈主催〉日本介護福祉教育学会

〈開催場所〉埼玉県 大宮ソニックシティ

〈開催年月日〉2018 年 2 月 7 日～8 日



	<p>(概要)</p> <p>わが国の超高齢社会における介護人材の不足は大きな課題であり、厚生労働省では団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年には 37.7 万人の介護人材が不足すると推計している。しかし、介護福祉士養成校への入学者数は年々減少し、本科においても保育学科からの内部進学者数は減少傾向である。本発表では、介護福祉への理解促進や入学希望者の拡大につながる方策について考察を重ねた。方法として保育学科 1 年生を対象とした進学ガイダンスでの試み、アンケート調査、専攻科在学生のインタビュー調査等を分析。結果から、在学生主体のガイダンスの有効性や、保育学科在学生における専攻科に関する認知度と関心度の一致等がみられた。これらの調査結果をもとに、学生募集の展開における今後の課題について考察を行った。</p> <p>第 24 回介護福祉教育学会 大会要旨集：p74 (早瀬 亮子 田中 文佳)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none">・ 苅田町社会福祉協議会評議員 (2009 年度)・ 第 4 次苅田町総合計画審議会委員 (社会福祉分野) (2010 年度)・ 「支援者支援シンポジウム」の開催 シンポジスト (2019 年 7 月) 主催：NPO 支援者サポート研究会・ 北九州市立年長者研修大学校 周望学舎 (2019 年 10 月) シニアカレッジ講師・ NPO 支援者サポート研究会 (2019 年度～現在に至る)・ 高齢者見守りサポーター(北九州市社会福祉協議会) (2020 年度～現在に至る)
所属学会	日本社会福祉学会 (1998 年～現在に至る) 日本介護福祉教育学会 (2017 年～現在に至る)
受賞歴	

所属	東筑紫短期大学 保育学科 専攻科 (介護福祉専攻)	
担当科目	【専攻科】 ・こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ ・発達と老化の理解 ・認知症の理解 ・医療的ケア	
	【保育学科】 ・子どもの保健	
専門分野	■看護学 ■老年看護分野	
最終学歴	国立大阪南病院附属看護学校	卒業
学位	専門士	
職歴	国立大阪南病院 小児科看護師 (1989年4月～1992年3月) 独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院 (1992年4月～2009年3月) (循環器・脳外科看護師 整形外科師長) 前川リウマチ科整形外科クリニック 看護師 (2012年4月～2017年3月) 学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校 (2017年4月～2022年3月) (専任教員 (老年看護学領域) 実習調整者) 学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学 保健室 (2022年4月～2024年3月) ○学校法人東筑紫学園 東筑紫短期大学 保育学科 専攻科 (介護福祉専攻) (2024年4月～現在に至る)	
教育上の業績	○独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院にて業務改委員・新人教育委員及び教育委員長を務めラダー教育の実践・指導を行う。	
主な研究活動	【学術論文】 1. TKA 術前オリエンテーション用ビデオの作成 『整形外科看護』第13巻11号、メディカ出版 掲載 (概要) 人工膝関節手術 (TKA) 手術に関する患者様・ご家族向け説明ビデオの説明。手術の概要やリスク、術前・術後のケア・注意点、入院時の対応など重要項目について解説した。 【本人執筆部分の概要】 臨床において手術を受ける患者さんの術前オリエンテーションを確実に実施する事は術後の経過に大きく影響する。術前オリエンテーションを行った後、本人やオリエンテーションに同席できなかった家族が何度も動画にて確認できるよう、オリエンテーション動画を作成した。動画中での説明・指導すべき内容の検討と動画作成を担当した。 著者：熊野美幸, 高鍋和恵, 中村こずえ, 伊藤元子	
	2. 整形外科における手術前のケア ～患者・家族からのアナムネーゼ～ 『整形外科看護』第14巻 3号 メディカ出版 掲載 (概要) 整形外科看護師に必要な不可欠な術前患者様へのケアについて解説した。 在院日数短縮に伴い、必要な情報を不足なくかつ効率的に収集する必要がある。他職種とも連携した術前準備の方法について解説した。 【本人執筆部分の概要】 本人・家族に対して、基礎疾患や既往症、内服薬の確認についての聴取方法。聴取時のプライバシー保護や話しやすさに配慮した環境調整について。入院に際しての心配事や退院後の生活についてキーパーソンも交えてのアナムネ聴取部分を担当した。 著者：伊藤元子, 古沢成美, 小松原真弓, 池庄司和子	



学校法人 東筑紫学園

東筑紫短期大学

HIGASHI CHIKUSHI JUNIOR COLLEGE

【学会発表】

特記事項なし